

全国学力・学習状況調査(5/27 実施 6・9 学年)について結果が公表されましたので、本校の結果分析と対策についてお知らせいたします。

| 学年 | | 国語 | 算数・数学 |
|------|-----|------|-------|
| 6 学年 | 全国 | 64.7 | 70.2 |
| | 茨城県 | 65.0 | 70.0 |
| | 本校 | 67.0 | 72.0 |
| 9 学年 | 全国 | 64.6 | 57.2 |
| | 茨城県 | 64.0 | 56.0 |
| | 本校 | 67.0 | 55.0 |

1 6 学年の課題と対策

(1) 国語

○課題のある問題 2 四(本校 16.0% 県 30.6% 国 29.7%)

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる問題。

○課題のある問題 3 三(本校 48.0% 県 50.9% 国 54.4%)

漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。

【分析】

記述式の問題については、条件を満たすことが必須だが、「条件の意味を捉え切れていない」実態が見られた。他の類似問題（記述式）においても同様に条件を満たしていない誤答が目立つ。

漢字の誤答については、言葉の前後を捉えずに、単純に漢字を書いたものが目立つ。

【教科としての対策】

説明や解説などの文章において、分かったことや考えたことをまとめる際に、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が文章全体を通してどのように構成されているのか、また目的に応じて文章と図表などの複数の情報を関係付けたり結び付けたりして捉える力を育てていく必要がある。文章をなんとなく読むのではなく、目的に応じてそれに関わる語句などに注意しながら読む練習を、授業や問題に取り組む際に意図的に取り入れ、取り組ませていきたい。

文章の中で修飾語と被修飾語の関係を捉える問題にも漢字と併せて、日常的に繰り返し取り組む小テストやプリントなどを活用して定着を図っていきたい。

(2) 算数

○課題のある問題 1 (1)(本校 64.0% 県 63.9% 国 62.5%)

2つのコースの道のりの差の求め方と答えを記述する問題。

○課題のある問題 2 (3)(本校 48.0% 県 46.0% 国 46.0%)

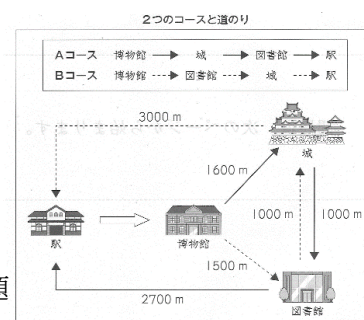
二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題

【分析】

答えは求められるが、過程を説明しきれていない。無答率の低さから、何らかの形で説明しようという意欲は大きなものになっている。文のみで伝える場面での、言葉や場面説明の取捨選択が不足している。また、平行四辺形の求積において、高さの位置を見誤っているものや公式が違っているものもあり、知識・技能面の不足も否めない。

【教科としての対策】

「思考・判断・表現力」を問う問題では、「答えのみが正しければよい」というのではなく、その



過程の説明や、根拠の説明が求められている。児童に説明を求める際、明確に条件を提示すること、また条件を満たした説明になっているか全体で検討し、的確な助言ができることが必要になってくる。また、「知識・技能」面の確実な習得のため、個に応じた助言の仕方、問題等の難易度に変化を持たせることも念頭に置きたい。さらに、「主体的に学習に取り組む態度」についての評価を単元の中で意識し、児童の課題に対する過程を称賛、評価し意欲面の喚起も図っていく必要がある。

2 9 学年の課題と対策

(1) 国語

○課題のある問題 2一(本校 33.3% 県 25.2% 国 24.8%)

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことを問う問題。

○課題のある問題 3四(本校 33.3% 県 24.4% 国 20.5%)

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかをみる問題。

【分析】

段落どうしのつながりや、文末表現の効果を捉えきれていない。文章において文や段落がどのような役割を担っているのかを接続詞や文末表現などを手掛かりに考えさせたい。

また、当問題の解答の条件は複雑になっており、どのように解答すべきかわからなかった生徒が多かった。難しい文章でも、リード文や脚注を手掛かりに読み進めることで内容が捉えやすくなることを伝えていく必要がある。

【教科としての対策】

日頃の授業から文章の内容理解にとどまるのではなく、読み取ったことを文章で表したり、そこから自分が考えたことを書いたりする場を積極的に設けたい。その際には、聞かれていることに対してどのように解答すべきなのかを事前に考えさせ、どのような内容を書くのか、どのような文末表現が適切かまで理解させるようにする。また、敬語に関する知識不足が明らかになった。国語科では授業の始まりや終わりに簡単なミニテストや練習問題に取り組みせるなど、敬語の継続的な学習を心がけるとともに、日常的な言語環境の整備にも努めたい。

(2) 数学

○課題のある問題 8(3)(本校 0% 県 13.0% 国 11.1%)

データの傾向を読み取り、それらを基に判断の理由を説明する問題

【分析】

度数分布多角形の特徴を比較する視点が、グラフの傾きの違いであったり、相対度数の一番高い階級で比べたりしている生徒が多い。これらのことから、生徒は、データの傾向を度数分布多角形の分布の特徴で捉えることのよさについて理解していないと考える。

【教科としての対策】

文章量が多く、文脈から必要な情報を読み取って、数学的な表現で答えたり、説明したりする形式の学習課題や過去問を、単元の終盤である「〇〇の利用」の学習時間等で取り扱うことを意識し、生徒が考察したり説明したりする場面を多く設定する必要がある。

図形の領域の三角定規を組み合わせる図形の性質を考察する問題では、合同な図形の性質や平行線の性質、平行四辺形になるための条件など、土台となる知識・技能が不十分であると根拠を明確にできず、先に進むことができない。他領域でも同様だが、知識・技能の基本をしっかり身に付け、それを活用できるようにする必要がある。そのため、つながりのある学習内容を意識し、普段の授業の中でも「どうして？」と切り返し、振り返る場面を設けていきたい。

